

事前評価の御指摘事項への取組

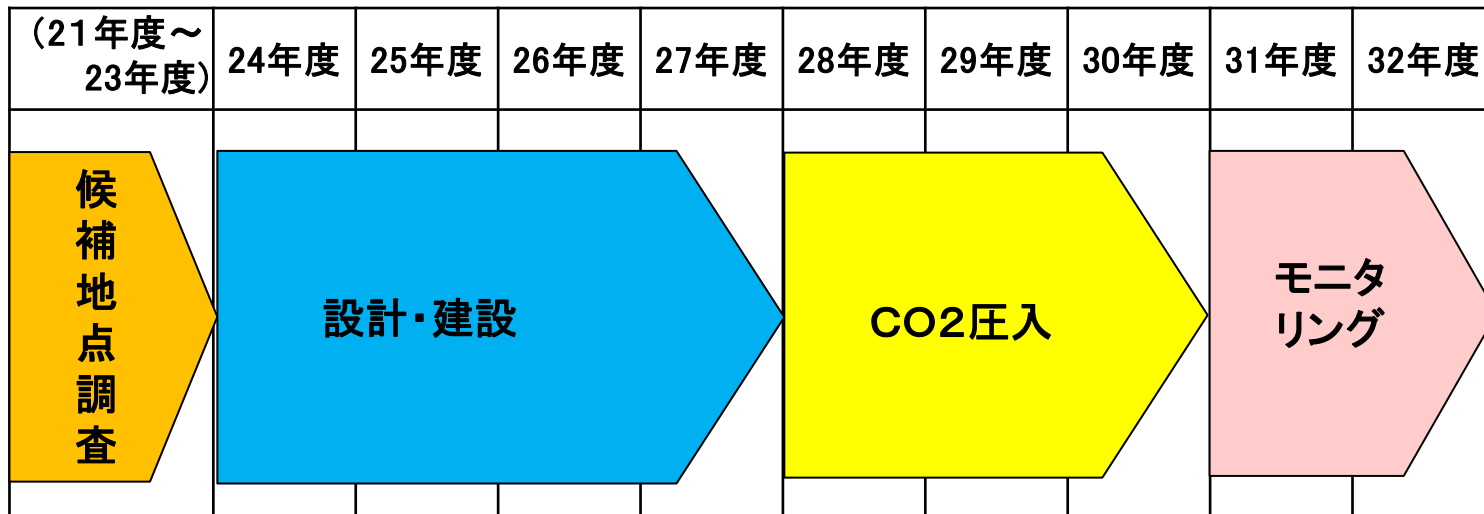
(1) 貯留地点の諸条件に対応した実施計画の適切な検証・評価の実施及び実施期間の適正化

【御指摘事項③】 貯留地点が確定した際には、設備の建設、圧入・貯留とモニタリングの実施などの実証段階ごとに、目標達成に必要な実施期間となるよう、事業期間の見直しを検討すべき。

【取組状況】

貯留地点を決定した際に実施期間の見直しを行い、4年間(設備の設計・調達・建設)、3年間(CO2圧入)、2年間(圧入後のモニタリング)の計9年間の実証試験計画とした。

実証試験スケジュール



事前評価の御指摘事項への取組

(1) 貯留地点の諸条件に対応した実施計画の適切な検証・評価の実施及び実施期間の適正化

【御指摘事項④】 実証試験に関係する地域のみならず広く国民的な理解の醸成を図ることが重要であることから、このような推進体制とは別に、CCS技術の実用化の必要性や、安全確保、環境影響などに関してわかり易く説明し、広報するなどの取組を推進すべき。

【取組状況】

< 苫小牧地点 >

自治体、漁業関係者、港湾管理者、現地町内会等の関係者に個別に説明するとともに、苫小牧市でCCSフォーラムやパネル展を開催、その他、商工会議所、苫小牧市内の大学、高専の学生を対象とした説明会を開催し、CCS技術の実用化の必要性や、安全確保、環境影響などに関して説明を行っている。

- ◆CCSフォーラム：来場者297名
- ◆パネル展の開催：苫小牧市内の公共施設等20箇所で実施
- ◆苫小牧駒澤大学、苫小牧工業高等専門学校、苫小牧商工会議所等でCCS講演会を実施。

< 広く国民的な理解の醸成 >

委託先の日本CCS調査(株)のホームページを改善し、CCSに関する概要、調査状況などを公開するとともに、環境問題に関するパネル展示等のPA活動を行うこととしている。

経済産業省においても、専門検討会の開催にあたっては、一般公開で行うとともに、資料、議事録もすべてホームページで公開している。

事前評価の御指摘事項への取組

(2) 関連施策も含めたCCS技術の研究開発の計画的な推進

【御指摘事項⑤】 経済産業省が実施する本実証試験と他の研究開発関連事業等との役割分担の明確化や実施機関間の連携協力が重要。

【取組状況】

CCSの実用化にあたっては、安全性を確保するとともに、コストの低減を図ることが不可欠であることから、当室において、実証試験事業の他、以下の研究開発を実施している。

- ・「二酸化炭素回収・貯蔵安全性評価技術開発事業」【モニタリングによる安全性評価の高度化】
- ・「二酸化炭素回収技術高度化事業」【中長期的なCO2回収コストの低減化】

上記のモニタリング事業の成果は、本実証試験にも活用予定。また、CCS技術の実証事業の実施機関(日本CCS(株))と技術開発の実施機関(地球環境産業技術開発機構)が密に連絡を取り、連携を強化している。

事前評価の御指摘事項への取組

(2) 関連施策も含めたCCS技術の研究開発の計画的な推進

【御指摘事項⑥】 本実証試験の実施に際しては、国内外の関連施策との連携なども重要。

【取組状況】

「二酸化炭素回収・貯蔵安全性評価技術開発事業」や「二酸化炭素回収技術高度化事業」については、米国の国立研究機関との共同研究を実施。

また、CCSはCSLF^(※2)やGCCSI^(※3)等の国際会議の場でも、意見交換を実施している。

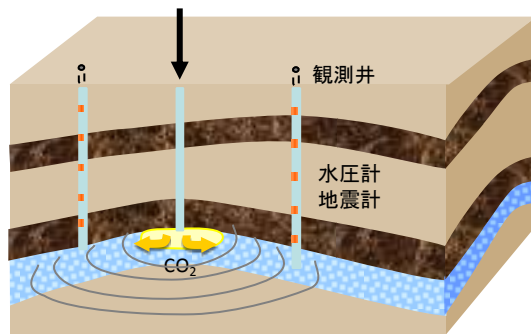
(※2) CSLF : 炭素隔離リーダーシップ・フォーラム (Carbon Sequestration Leadership Forum)

米国が中心になり、炭素隔離技術の開発と応用を促進するための国際協力を推進する組織

(※3) GCCSI: グローバルCCSインスティテュート (Global CCS Institute)

豪州が、CCS技術の世界的な利用促進を図ること目的に設立した組織

(取組例) モニタリングによる安全性評価技術に関する共同研究

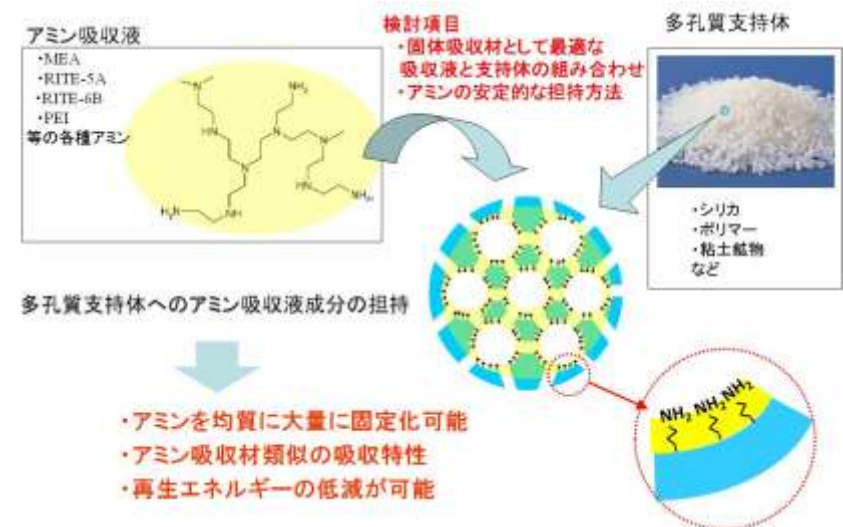


米国LANL, LBNLとの共同研究

LANL (Los Alamos National Laboratory)

LBNL (Lawrence Berkeley National Laboratory)

(取組例) CO2固体吸収材の開発



米国NETLとの共同研究

NETL (National Energy Technology Laboratory)

事前評価の御指摘事項への取組

(2) 関連施策も含めたCCS技術の研究開発の計画的な推進

【御指摘事項⑦】 CCS技術の実用化に向けては、技術的課題のほか、制度的・社会的課題があり、CCS技術実用化に向けて取り組むべき課題とその解決手段、実施責任主体、達成時期等を具体的に明確にした全体のシナリオを策定し、それに基づく適切な進行管理を行うべき。

【取組状況】

実施計画案については、上述の通り、「CCS実証試験実施に向けた専門検討会」で技術的な観点からの評価を行ったが、今後、実証事業の進捗に併せ、専門家による実施推進体制を整備し、制度面等の課題についても評価していただく予定。

【御指摘事項⑧】 関係法令を遵守するとともに、設備全体の安全な運転管理や事故の未然防止に向けた取組、周辺環境も含めたモニタリングなど安全性確保や環境影響防止等に関する必要かつ十分な体制を整備することが必要。

【取組状況】

大規模実証試験を実施するに当たっては、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律、高圧ガス保安法をはじめ、関係法令の遵守が不可欠。法令ごとの責任主体を明確にし、適切な保安管理体制の構築に努めているところ。

事前評価の御指摘事項への取組

(3) 安全性確保等への取組強化と国民への情報開示等の徹底

【御指摘事項⑨】 安全性確保や環境影響防止等に関する情報も含め、本実証試験に関する実施計画や成果情報等は、広く国民への開示を行うべき。

【取組状況】

大規模実証試験の実施状況やモニタリングデータ等の情報については、逐次公開を予定。また、苫小牧地点での建設工事が開始された際には、現地にライブカメラを設置し、HP上で映像をリアルタイムで一般公開することを検討している。